

令和3年7月28日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム
＜社会還元加速プログラム（SCORE）チーム推進型＞
2021年度新規課題の決定について

JST（理事長 濱口 道成）は、大学発新産業創出プログラム＜社会還元加速プログラム（SCORE）チーム推進型＞における2021年度の新規課題8件を決定しました（別紙）。

本事業では、ベンチャー企業の創出に向けた高い潜在性を持つ技術シーズを対象とし、その事業化を担うベンチャーの起業・成長に有益な知識の学習およびビジネスモデルの仮説立案・検証を行います。具体的には、研究者や事業化プロデューサーなどがチームを組み、自らの技術シーズを基にしたビジネスモデルの策定と実用検証可能な最小限の試作品やデータ（実験結果、計算結果）などを準備し、想定される顧客などから評価を受けます。その評価結果や社会ニーズを、次の研究開発にフィードバックさせてビジネスモデルのさらなる現実化・高度化を目指すとともに、事業化に向けた改善サイクルの経験を通して、起業および経営に必要な能力の向上やネットワークの形成を図ります。

本年度の募集は2021年3月22日（月）から5月12日（水）まで行い、19件の応募がありました。それらに対し外部専門家で構成された委員会による審査を実施し、その結果を基に8件の新規課題を決定しました。

今後、契約などの条件が整い次第、活動を開始する予定です。

なお、事業の詳細については下記ホームページをご覧ください。

ホームページURL：<https://www.jst.go.jp/start/jigyo/score.html>

＜添付資料＞

別紙：研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム

＜社会還元加速プログラム（SCORE）チーム推進型＞採択課題一覧

参考：研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム

＜社会還元加速プログラム（SCORE）チーム推進型＞

＜お問い合わせ先＞

科学技術振興機構 産学連携展開部

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町

森田 浩（モリタ ヒロシ）

Tel：03-5214-7054 Fax：03-3238-5373

E-mail：[start-score\[at\]jst.go.jp](mailto:start-score@jst.go.jp)

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム
 <社会還元加速プログラム（SCORE）チーム推進型>
 採択課題一覧

（所属名：五十音順）

課題名	研究代表者	課題概要
生体温度で発電可能な温度差電池のウェアラブルデバイスへの応用	九州大学 大学院工学研究院 准教授 星野 友	生体温度付近において高い起電力および変換効率を得られる温度差電池をベンチャーで事業化し、社会実装するための準備・検証を行う。具体的には、本研究で所有する特許・技術を踏まえ、ビジネス面および技術面から実用可能性を検証する。
虫こぶ形成昆虫由来生理活性ペプチドCAPを利用した新規バイオスティミュラントの汎用製品化	京都府立大学 大学院生命環境科学研究科 教授 佐藤 雅彦	植物の幹細胞誘導能力やストレス耐性能力を活性化する虫こぶ形成昆虫由来のCAPペプチドを利用して、植物が本来持つ耐病性や耐塩性、耐乾燥性などのストレス耐性能力を最大限に引き出す新規バイオスティミュラントの商品化およびベンチャー企業の設立を目指した準備活動を行う。
ダイヤモンド耐環境エレクトロニクスの事業化検証	産業技術総合研究所 センシングシステム研究センター 主任研究員 大曲 新矢	高温・放射線環境下でも動作するダイヤモンド耐環境エレクトロニクスの事業化を目指し、エンドユーザーへの聞き取り、素子提供を通じて、コア・コンピタンスを明確化し、事業モデルの構築・検証を行う。
超高性能プラズマ制御技術に基づいた極限真空ポンプの事業化検証	自然科学研究機構 核融合科学研究所 准教授 本島 巖	超高性能プラズマ制御研究ではこれまで多くの極限技術が開発されており、それらを使った民生応用製品販売について事業化検証する。具体的には、高性能真空ポンプの製品販売事業と、細孔を制御した活性炭を真空ポンプの部品として供給する事業について検証する。

<p>次世代型超音波生体モニタリング技術の事業化</p>	<p>電気通信大学 大学院情報理工学研究科 准教授 小泉 憲裕</p>	<p>人工知能技術およびロボット技術を応用し、既存の超音波診断装置に付加するだけで誰もが簡単に運動する臓器内の患部を自動抽出・追従・モニタリングできる次世代型超音波生体モニタリング装置の事業化検証を行う。</p>
<p>共晶反応を用いて作製した多孔質アモルファスシリコンの事業化検証</p>	<p>東北大学 金属材料研究所 准教授 岡田 純平</p>	<p>最近開発に成功した多孔質アモルファスシリコンは、液体リチウムイオン電池だけでなく全固体リチウムイオン電池の負極材としても高容量・長寿命という優れた性能を発揮するため、社会実装に向けた事業化検証を行う。</p>
<p>形状記憶更新性をもつ熱硬化性樹脂の事業化検証</p>	<p>名古屋工業大学 産学官金連携機構 特任助教 片山 精</p>	<p>エコデザインであるハニカム構造に着目し、開発した自己接着性および形状記憶更新特性をもつ樹脂を活用した製品の試作、および事業化検証を行う。</p>
<p>細胞集塊培養技術によって得られる人工材料不含の骨様組織を用いた顎骨再建療法事業化検証</p>	<p>広島大学 大学院医系科学研究科 助教 加治屋 幹人</p>	<p>腫瘍摘出後などの大規模顎骨欠損患者に対し、間葉系幹細胞を加工して得られる人工材料不含の骨様組織を移植する事業の実現を目指すため、対象患者の実態把握、販売チャネルとなる企業調査、骨様組織の競合優位性の検証を行う。</p>

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム ＜社会還元加速プログラム（SCORE）チーム推進型＞

大学等の優れた技術シーズを基にした成長ポテンシャルの高い大学発ベンチャーの創出を促進するためのプログラム。

研究者と事業化プロデューサー^{注1)}などが、事業化支援ノウハウを持つアクセラレーターなどによる研修やメンタリングで起業に有益な知識を実践的に学習します。併せて自らの技術シーズを基に実用検証可能な最小限の試作品やデータ（実験結果、計算結果）などを準備し、想定顧客などの評価を受け、その結果や社会ニーズを研究開発にフィードバックさせることで想定ビジネスモデル仮説を現実化、高度化させます。このようなビジネスモデルのブラッシュアップを繰り返すことで、ベンチャーに必要な実戦的能力の向上やネットワーク形成を図り、次の事業化ステージにつなげていきます。

注1) 事業化プロデューサー

研究代表者の技術を基にした起業化の展開において、ビジネスモデル仮説の立案および検証の活動を中心的に行う者。学内外を問わず、研究代表者と二人三脚の協働で活動を行える者。

SCORE 活動の流れ

